

## 平成25年度「市長と語りあう会」について

### 1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
10月16日（水）	鎌手地区振興センター	19:00～20:05	14	0	14

#### ○市側出席者

市長、総務部長、経営企画部長、秘書広報室長

### 2 会の概要

#### ○開会（秘書広報室長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

#### ○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

鎌手地域においては、地域の特色を活かしたまちづくりに取り組まれていることへのお礼。

##### (1) 行財政改革

- ・ 益田市は平成17年に財政非常事態宣言をし、行財政改革大綱(平成21年度が最終年度)を策定したが、職員を削減することを目指しただけで、その後止まったままである。
- ・ 行財政改革の目的は、組織をスリムにすることと併せて行政サービスを向上させることである。行政サービスを向上させるためには行政効率を高めなければならない。
- ・ 地方交付税について、現在は市町村合併の特例措置で年90億円の内12億円加算されているが、合併後10年経た後は段階的に減額されていく。
- ・ 現在平成25年度から平成32年度までの8年間の新しい「行財政改革計画」の策定作業に取り組んでおり、財政削減と国県補助のより一層の活用方針について12月議会において示す予定でいる。また、平成25年度から平成28年度までの前期4年間の行動計画も併せて示す。

##### (2) 人口拡大計画

- ・ 人口に着目する理由としては、人口が増えないと就業者も減り消費の減少にも繋がっていくことが挙げられるが、どうしたら人口が増えるかという計画を今後示したい。
- ・ 人口拡大については、3つの要素(社会増、自然増、交流人口拡大)と5つの視点(転入増、転出減、出生増、健康長寿、交流)で捉え、取り組んでいく。特に、若い人が安心して出産し子育てができるような環境を作るための経済的負担軽減に取り組む。具体的には、乳幼児医療の助成を拡大したいと考えている。その他については、来年の3月に示す。

##### (3) その他の重点事項

#### ① 萩・石見空港

##### ア 東京便

- ・ 現在「羽田発着枠政策コンテスト」に応募している。これは、航空局が羽田発着枠3便分の利用希望を募集していたのを受け、萩・石見空港利用促進協議会とANAが応募したものである。提案のポイントは、東京便2便化で、利用客増のためにどうやって対応するか、赤字対策について提案している。
- ・ これまでの利用者数は、42,000人が最低で、平成22年度に50,000人を超え、平成23年度に60,000人を超えた。平成25年度は70,000人以上を目標にしているが、この目標は達成される見込みである。
- ・ コンテスト枠が確保された後は、3便化を目指す。

##### イ 大阪便

- ・ 利用者数は、平成23年度4,500人、平成24年度4,500人、平成25年度目標5,200人に対して実績は5,000人以上であった。
- ・ 東京便2便化と併せ、大阪便の定期便化に取り組む。

#### ② 山陰自動車道

##### ア 浜田・三隅間(浜田―西村、西村―三隅)

- ・ 浜田・西村間は平成26年度末に開通見込みで、西村・三隅間は平成28年度開通見込

みである。

イ 三隅・益田間

- ・ 平成23年度末に事業化が決定された。今、調査、設計、測量中である。
- ・ 三隅・益田間では、三隅、岡見、鎌手、遠田のインターチェンジが設けられる。
- ・ 通常事業化が決定されてから開通までに10年は要するが、2020年度までに安来―益田間が全線開通して欲しいということを一目標としており、これが実現されるように努める。東京オリンピックで東京と地方が金の取り合いになるので、地方に金が来るように努める。
- ・ 鎌手地区は市街地近くを道路が通るが、道路新設には用地買収が大きなポイントになるので、鎌手地区のみなさんのご理解とご協力をお願いしたい。
- ・ 11月5日から11月15日までの間で、国、県、市による合同説明会を鎌手地区内7カ所で開催する予定である。
- ・ 国、県と協力し該当する地区のみなさんの意向もしっかり伺って事業を進めていきたい。

ウ 萩・益田間

- ・ 萩・益田間の60kmについて、これまでは予定路線であったが、このたび優先区間絞り込み調査区間になり、60kmの中のどこを優先するかという調査が始まることになった。できれば、益田―田万川間から始めて頂きたい。
- ・ 今年夏の豪雨では、国道9号、191号共に不通になり、山陰自動車道が開通すれば、こうした場合のバイパス機能も発揮出来ることが再認識された。

(4) 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ① 萩・石見空港の名称の統一について
- ② 益田市のPRについて
- ③ 林業の振興について
- ④ 太陽光発電の推進について
- ⑤ 学校統廃合について
- ⑥ 三隅益田道路について

○ 閉 会 （秘書広報室長）



# 平成25年度「市長と語りあう会」

〔会場 鎌手地区振興センター〕 開催日時：平成25年10月16日(水)19:00～20:05

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 萩・石見空港の名称の統一について            萩・石見空港の名称について、マスコミでは石見空港と表示しているのを見かける。「萩・石見空港」で統一してはいかがか。</p> <p>② 益田市のPRについて            鎌手水仙公園には、飛行機や列車を利用して周南方面や東京からも来場者があった。            徐々に人が増えていきそうであるが、益田のまちを観光面でPRして欲しい。そのことが東京便2便化にも繋がっていく。</p> <p>③ 林業の振興について            岡山県真庭市では木質バイオマス発電に取り組んでいると聞く。電気の供給や売電の状況をテレビでも見たが、益田市においても木材を利用して雇用の場を創出する取り組みを行ってはどうか。</p>	<p>① 空港の正式名称は「石見空港」であり、「萩・石見空港」は、あくまでも愛称である。しかし羽田空港でも「萩・石見」と表示されており、新聞社等では正式名称が使われているということだと思う。</p> <p>② 様々な機会を捉え、様々な媒体を活用して益田市をPRしていきたい。</p> <p>③ 近年再生可能(自然)エネルギーを活用した発電が注目されている。原子力発電や石油や石炭を燃料とする火力発電は、環境の面からは必ずしも適切とは言えないし、核廃棄物の処理方法は決まっていない。            したがって、太陽、水、風、木材を利用した発電に変えていくべきではないかという流れになってきているし、大筋はそうすべきと考える。            再生可能エネルギーを活用した発電の長所としては、環境面への負荷が少ないことやそのエネルギーが無限であることが挙げられるが、逆に発電コストが高いことが短所となっている。コストの面では原子力が最も安い。            再生可能エネルギーを普及させるためには政策的に進め、初期投資に補助金を出す等コストを下げる方法か、買取り価格を上げるしかない。今春からは、高く買ってその分電気代を少し上げる方法で補っている。            市も公共施設での太陽光発電を募集したが、日照や建物の屋根の形状が合わなかったことなどで応募がなかったことから、他の市有地での導入を検討している。            現在県内で取組まれている木質バイオマス発電は、県が県の東西それぞれ1カ所で公募したもので、江津市もそのひとつである。江津市には益田市の素材生産業者も木材を提供しており、益田市にとってもメリットがある取り組みであった。             それでは、もうひとつ益田市に作ったらどうかという考えもあると思うが、木質バイオマス発電の場合には、木材の安定的供給が出来るかどうかポイントになることから余力があるとは思えない。他に供給能力があれば実現が可能になると思う。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>④ 太陽光発電の推進について 益田市の日照時間は全国で5番以内と伺っているが、太陽光を十分活用していないと思う。大学等に依頼して研究して欲しい。</p> <p>⑤ 学校統廃合について 学校の統廃合計画の中で、特に中学校の統合について教育委員会から話を聞いている。 鎌手地区から、中学校がなくなるのは大変なことと思う。鎌手地区が発展し教育環境を整えていくためには、小中一貫教育をはじめ新しいことに取り組む等考えて欲しい。学校統廃合がベストの方法とは思わない。 心豊かな子どもを育てるためには大きな学校が良いとは限らない。</p>	<p>④ 益田市も日照時間は長い方ではあるが、太陽光発電には日照時間よりも日照量(エネルギー)の方が重要と聞く。日照量で言うと山陽側の方が大きいですが、益田市も適地には間違いない。事業としても成立すると思う。 10月19日にハイレックスコーポレーション社が、太陽光発電施設の竣工式を予定しており、他にも太陽光に興味を持っている企業があり協議を進めている。行政としてはそうした民間の取組みを支援していきたい。</p> <p>⑤ 学校統廃合の目的は2つの面を持っている。ひとつはコストの面である。 もうひとつは、少人数の学校では様々な影響があることである。 子供の数は多すぎてもいけないが、少なすぎると複式化せざるを得ないし、少なすぎると、特に1クラス10人以下になると子ども達の反応が限られ、他の子どもの反応から気付きを得るという波及効果が少ない。また、スポーツの面でも可能なスポーツが限られる。 したがって、ある程度の人数がないと好ましい学習環境とは言えないし、教育環境の維持には学校を統合せざるを得ない。 小学生は、通学可能距離が限られることから統廃合は中学校から始めたい。かつては、鎌手村役場があり地元の努力で村立の学校が運営され心の支えになっていたことから、学校に対しては地域の歴史や思い入れがあり廃校することはさみしいと思うが、子どもの学習環境を優先して議論して頂きたい。 鎌手に住んで少し遠い教育環境が充実した学校へ行くことと鎌手に住んで人数が限られている地元の学校に行くのとではどちらが子供たちにとって幸せか考えて欲しい。 ただ、学校統廃合は一方的には進められないので、地元の方に納得して頂いて円満に解決すべきと考えている。</p>
<p>⑥ 三隅益田道路について ここ1、2年で三隅益田道路関連の用地買収が始まると思う。 用地買収交渉において、「宅地は買収するが移転先の土地は各個人が見つけて欲しい」と言われている。それについて、すごく心配している。 道路によって下の上集落は2つに分断されることから、立退きと併せて宅地造成も検討して欲しい。</p>	<p>⑥ 道路整備の事業主体は国だが、地元との交渉は、県、市と一体となっていくべきと思う。 下の上集落の方には土地を提供頂くことで負担をかけるので、一軒一軒ひざを交えて対策を考えて行きたい。</p>